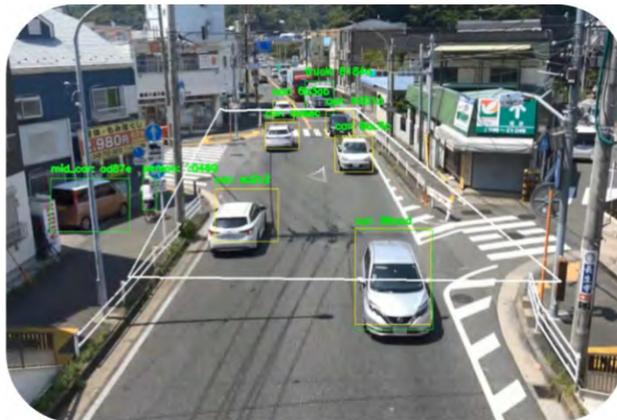


交通量調査のICT化の取組について

従来手法の課題と解決に向けた取組

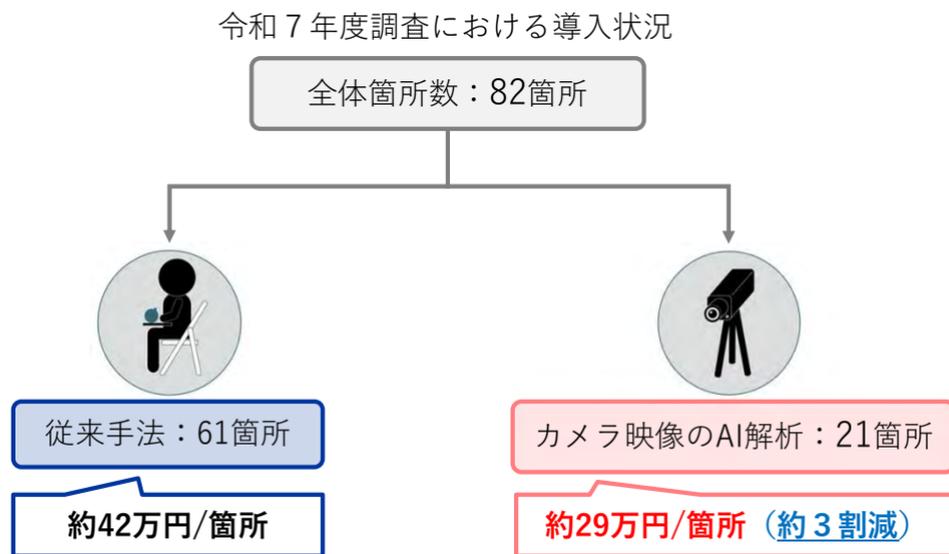
- 交通量調査は、道路計画の策定や整備効果を確認するための基礎資料となる、交通データの取得を目的として、本市の主要な交差点を対象に、定期的を実施しています。
- 従来手法では1か所当たり3～7人の調査員が必要であり、慢性的な人手不足や煩雑・膨大な入力・集計作業などが課題となっていました。
- 従来手法の課題解決のため、ICT技術を活用した実証実験を行い、「カメラ映像のAI解析技術」は、必要な精度を有し、コストの削減が期待できることを確認しました。（令和7年3月11日記者発表）



カメラ映像のAI解析による交通量調査

ICT化の導入状況とその効果

- 令和7年度に行った交通量調査では、市内82箇所のうち、21箇所ではカメラ映像のAI解析技術を導入しました。AI解析に用いるカメラ映像は、交差点毎に仮設カメラを設置することで取得しました。
- ICT化により、従来の人手観測で課題であった調査員数の削減とともに、膨大な調査結果の入力・集計作業が不要となったことで、約3割のコスト削減を達成しています。



道路管理カメラを活用した更なる効率化

- 道路管理カメラは、既存の街路灯の灯具をカメラ内蔵型灯具に置き換えることで、高所から俯瞰してリアルタイムの道路状況を把握することができるものです。
- 道路局では、災害時の迅速な初動対応・道路啓開を効率的に行うため、緊急輸送路の交差点を中心に、市域を面的に網羅するよう設置を進めており、令和7年度中に40箇所、9年度までに合計約100箇所に整備する計画です。

道路管理カメラ付き街路灯



道路管理カメラによる映像（上末吉交差点）



今後の展開

- 道路管理カメラの映像から交通量解析が可能となれば、仮設カメラの設置等が不要となり、更なる効率化が期待できることから、令和8年度から順次、道路管理カメラの映像検証を進め、9年度にはAI解析が可能な交差点を把握します。
- 道路管理カメラでは解析ができない交差点については、観測機器の設置等も含めて検討し、12年度に全国規模で実施される交通量調査（全国道路・街路交通情勢調査）までに、人手に頼らない調査体制の構築を目指します。